

【水の里の旅コンテスト2016 応募企画】

【一般部門】

NPO法人 遊佐鳥海観光協会

鳥海山の湧水めぐり ～海から山へ～
命を繋ぐ食とくらしをたどる旅

観光地域：山形県遊佐町

【日程】	日帰り		
【実施時期】	夏		
【催行人員】	30名（最少催行人員：15名）	【お勧めする旅行者層】	里山に関心のあるシニア
【旅行代金】	8,000円 (大人1名)	【内 訳】	
		バス借上代金 80,000円	添乗員費用 5,400円
		昼食 90,000円	企画費用 5,400円
		ガイド2名 10,000円	
		保険料 9,000円	(オプション宿泊希望者+13,000/1人)
【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】			
<p>独立峰として東北最高峰の鳥海山は、山形県と秋田県の境界に跨り、その位置から古来水分（みくまり）の山と呼ばれ、庄内米や庄内柿、庄内メロン、日本海側随一の鮭の人工孵化、そして豊かな鳥海山の湧水が生み出す天然岩がきなど、出羽の人々の暮らしと信仰を見守ってきました。今年、鳥海山は、日本海と大地がつくる水と命の循環とりわけその類い希なる湧水が評価され、日本ジオパークに認定されました。それらを直接感じることのできるジオサイトを海から里山へたどり、出羽の人々の命と暮らしを支えてきた鳥海山の恵みを体感するツアーです。</p> <p>【おすすめポイント】類い希なる湧水</p> <p>①神泉の水 女鹿集落で現在も住民が共同で管理利用している湧水を訪ねます。 ②釜磯海底湧水群 鳥海山の湧水が日本海に湧きだしている海底湧水を見学します。 ③鳥海山大物忌神社吹浦口の宮 鳥海山山岳信仰の拠点、五穀豊穡の神にご挨拶。 ④丸池様・牛渡川 古来から信仰をあつめる鳥海山の湧水だけでできている丸池様と牛渡川を訪ねます。 ⑤遊佐町元町湧水群 今でも生活に使われている遊佐町元町の300以上の自噴井戸の一部を歩いて見学します。 ⑥胴腹滝 農業用水として今も使われる名水胴腹の滝、右と左の味比べ。 ⑦鳥海三神の水 冷たくおいしい湧水を汲んでお持ち帰り。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
1. ジオガイドの配置による満足度の高いツアーを行う。 2. 添乗員同行による安全配慮 3. 事故の場合の連絡体制の確立		1. 昼食は、日本海を見下ろす東北公益文科大学セミナーハウスにて天然岩がきのお食事 2. 遊佐元町湧水群の映画「おくりびと」ロケ地で記念撮影 3. 鳥海三神の水をペットボトルでお持ち帰り 4. 環鳥海の特産品を道の駅にてお求め頂けます。	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① 遊佐町（観光物産）	企画協力	⑤鳥海山おもしろ自然塾運営委員会	ガイド派遣
② 遊佐町鳥海山観光ガイド協会	ガイド派遣	⑥	
③ 遊佐町総合交流促進施設（株）	食事（宿泊）	⑦	
④ 東北公益文科大学	セミナーハウスの提供	⑧	
【特記事項】	宿泊を希望される皆様には、オプション1泊2食13,000円で鳥海温泉遊楽里をご案内します。（ホテルまで送ります。）		
【催行実績】	有り		

【 行 程 表 】

1 日目	9:00 集合	9:30	10:00	11:00	11:40	13:00 発
	JR 遊佐駅→神泉の水→釜磯海底湧水群→鳥海山大物忌神社吹浦口の宮→東北公益文科大学セミナーハウス（昼食）→					
	13:15	14:00	14:30	15:00	15:15	16:00 解散
道の駅鳥海ふらっと→遊佐町元町湧水群→おくりびとロケ地→胴腹滝→鳥海三神の水→JR 遊佐駅						

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来など） 】

【神泉の水】	【釜磯海底湧水群】	【鳥海山大物忌神社吹浦口の宮】
		
<p>【コメント】</p> <p>女鹿集落のほぼ中央に鳥海山の湧水を引き、6区画に分け、集落全員で共同利用しています。一番上は飲料。2段目は、果物を冷やしたり野菜や海草を洗ったりする場所。ここに天然岩がきもしばらく保存されています。3段目は洗濯に、4段目は汚れがひどいもの、泥がついた鍬や畑仕事で汚れた合羽などの洗い場、5、6段目はかつて子どものおしめを洗うのに使われていたそうです。</p>	<p>【コメント】</p> <p>鳥海山の湧水は、日本海からも湧き出ています。釜磯は、その様子が観察できる場所です。ビックリするほど水温が低く、昔は人がすっぽり入れる湧水がありました。子どもたちは夏の海水浴の後に「塩水落とし」として利用したそうです。溶岩の固まった先から湧水が砂を押し上げて湧いているのを見ることが出来ます。世界的にも珍しい場所とされています。</p>	<p>【コメント】</p> <p>創祀は第二十九代欽明天皇二十五年（五六四）の御代と伝えられています。当時から鳥海山は噴火を繰り返しそのたび鎮祭が行われていました。本社は山頂にあり、麓に里宮（口の宮）が二カ所にあります。後に出羽国一之宮となり、近世には鳥海講による代参登山が盛んになり、水分（みくまり）の山として農林漁業者の信仰を集めています。</p>
【丸池様・牛渡川】	【遊佐町元町湧水群】	【胴腹滝】
		
<p>【コメント】</p> <p>周囲をうっそうとした樹木に覆われている豊富な湧き水だけでできている直径 20 メートルの神秘的な池です。水は、エメラルドグリーンで、底から湧き出る湧水が観察できます。昔から眼に関する伝説が伝えられています。池に沈んでいる倒木が腐らないのは、冷たい水温の湧水のためです。湧水だけでできている牛渡川と一緒に見学ください。</p>	<p>【コメント】</p> <p>鳥海山に降る雨や雪は、たくさんの河川、湧水、自噴井戸を形づくっています。遊佐元町地域では、たくさんの自噴井戸がありその数は 300 箇所以上、湧出量は 4,200 トリ。鳥海山の湧水であるこれらの水は、出羽の人々や生き物の営みを支えてきました。その内 14 カ所は、歩いて巡ることができるように整備されています。</p>	<p>【コメント】</p> <p>遊佐町は湧水の宝庫！1996 年「水の郷百選」（国土交通省）に認定されています。そのシンボルがこの胴腹滝。鳥海山の伏流水が山腹から湧き出ている様子から身体の「どうっぱら」という例えで名付けられました。冬でも凍ることがなく、年中水汲みの人が絶えません。二筋の滝は味が違うと言われています。</p>

主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来など）】

【鳥海三神の水】



【コメント】

水汲みができる最も標高の高い湧水ポイントです。「鳥海山が生んだ三ノ俣集落の水」から「鳥海三神の水」と呼ばれています。産直施設「さんゆう」の駐車場前にあり、車が横付けできるため、水を汲みに来る人が多い人気のスポットです。

【おくりびとロケ地】



【コメント】

遊佐町はアカデミー賞最優秀外国語映画賞を受賞した「おくりびと」のロケ地です。特に主人公大悟が鳥海山をバックにチェロを弾くシーンや大悟と妻の美香が河原で「石文」を取り交わす場面など、印象深いシーンが撮影されました。

【天然いわがき】



【コメント】

遊佐町の味のNo. 1は天然いわがきです。鳥海山の冷たい湧水が日本海に湧き出る吹浦地区の天然いわがきは天下一品。夏場に食べる海のミルクです。冷たい湧水が湧き出る汽水域の天然いわがきはずっしり重く、5年を超える大物もあります。